

### ■ 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは0点。

### ■ 論述問題

- ① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。
- ② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

### ■ 共通減点基準

- ① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは1点減点。
- ② 下線の付け忘れは1問につき1点減点。
- ③ 指定語句不使用は，指定語句1つにつき1点減点。  
(解答中のどこかで使用していればよい。  
加点ポイントの脱落による減点がある場合は，それ以上の減点は不要。)
- ④ 字数オーバーは1点減点。

\*減点しなくていい要素，その他の注意

- ① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇄スロベニア，パキスタン⇄パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。
- ② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は0点だが，減点はしない。
- ③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。
- ④ 文章が未完のものも減点しない。

### ■ 採点記号について

1. <□□□□> 加点ポイント
2. □□□□× 事実誤認あり
3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

## ■ 設問別加点基準

- 1) \_\_\_\_\_部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の説明として)」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。

### 第1問 (20点)

#### 設問A

(1) 2点 (完答)

アーガンジス川    イーナイル川    ウーニジェール川    エー長江

(2) 3点

Pでは低日季は亜熱帯高圧帯の影響で乾燥、高日季は赤道低圧帯の影響で湿潤だが、Qでは年中亜熱帯高圧帯下にあり乾燥する。(2行)

#### 【加点ポイント】

①<1点> 【Pについて1】

- ・低日季 (冬/冬季) は乾燥 (雨が少ない/降水量が少ない/乾季である)
  - ・(低日季は) 亜熱帯高圧帯 (中緯度高圧帯) の影響を受ける
- 両方の要素で1点

②<1点> 【Pについて2】

- ・高日季 (夏/夏季) は湿潤 (雨が多い/降水量が多い/雨季である)
  - ・(高日季は) 赤道低圧帯の影響を受ける
- 両方の要素で1点

③<1点> 【Qについて】

- ・年中乾燥 (雨が少ない/降水量が少ない)
  - ・(年中) 亜熱帯高圧帯 (中緯度高圧帯) の影響を受ける
- 両方の要素で1点

(3) 2点

P付近では人口増加がもたらす過放牧・過伐採によって砂漠化が、河口では石油採掘による海洋汚染が、それぞれみられる。(2行)

#### 【加点ポイント】

①<1点> 【P付近の自然環境破壊について】

- ・砂漠化/土地の不毛化/土地の荒廃/森林破壊/植生の喪失/土壌の劣化
  - ・(その理由として) 過放牧/過伐採/過耕作
- 両方の要素で1点

②<1点> 【河口付近の自然環境破壊について】

- ・海洋汚染/水質汚濁
  - ・(その理由として) 石油採掘/油田開発/石油産業/原油流出
- 両方の要素で1点

(4) 3点

経済成長による人口増加地域で、地球温暖化に伴う熱帯低気圧の大型化や集中豪雨の激甚化で高潮・洪水被害が一層拡大する。(2行)

【加点ポイント】

①<1点> 【自然的背景】

- 熱帯低気圧（サイクロンや台風）の大型化
  - 集中豪雨の激甚化（ゲリラ豪雨の増加）
- いずれかで1点（以下同）

②<1点> 【①の理由】

- 地球温暖化／温暖化
- ×異常気象

③<1点> 【社会的背景】

- 人口増加／河口付近への人口集中／河口付近への産業集中
- (※「人口増加」または「河口付近の人口（企業）が増加する」ことが読取れば可)

設問B

(1) 完答1点

カーインド キーアメリカ合衆国／アメリカ ヨードイツ  
※「ク」の場合は不可

(2) 3点

水資源を多く用いる素材型工業の減衰、用水の利用効率の向上や排水の再生利用が進み、特に工業用水の需要が減少した点。(2行)

【加点ポイント】

①<1点> 【需要減少の特徴】

- 工業用水が減少した

②<1点> 【背景について1】

- 素材型工業の減衰
  - 鉄鋼業（重化学工業）など水を多く使用する工業の衰退
  - 軽薄短小産業（電子工業など）への転換
- (※工業種の変更により水使用量が減ったことが読取れば可)

③<1点> 【背景について2】

- 用水の利用効率の向上
  - 排水の再生利用（水の再利用）
- (※用水は「工業用水」などに限定していても可)

(3) 3点 ※ [指定語句] 教育機会 死亡率 2つ全て 下線付きで使用

☆☆ 指定語句不使用は、指定語句1つにつき1点減点。  
ただし、解答中のどこかで使用していれば減点しない。  
下線の付け忘れは、複数あっても「1問につき1点」のみ減点する。

衛生状態が劣悪なため、特に免疫力の弱い乳幼児の死亡率が高いうえ、子どもが労働力として遠くまで水汲みに行くことや、学校のトイレ不足から登校をためらうことなどで教育機会が阻害される。(3行)

【加点ポイント】

①<1点> 【死亡率について】

- 衛生環境が悪いため死亡率が高い／感染症による死亡率が高い
- 乳幼児の死亡率が高い

②<1点> 【教育機会について】

- 教育機会が奪われる
- 教育機会が充分でない

③<1点> 【②の理由】

- 水汲み（に行かなければならないため学校に行けない）
- 学校のトイレ不足（トイレの不備により学校に行きたがらない）

(4) 3点 ※ [指定語句] 間接的 食料自給率 2つ全て 下線付きで使用

指定語句については ☆☆ 参照

食料自給率の低い日本は、大量の農畜産物輸入によって、間接的に相手国の水資源を収奪し、地下水枯渇などの問題を招いている。(2行)

【加点ポイント】

①<1点> 【日本の食料事情】

- 食料自給率が低い
- 食料自給率を上げなければならない

②<1点> 【①の影響】

- 農畜産物を大量に輸入している
- 食料の輸入が多い

③<1点> 【②が招く国際的課題】

- 間接的に相手国の水資源を収奪している／間接的に相手国の水を輸入している
- 農畜産物を育てるために使った水を間接的に輸入している
- 仮想水（バーチャルウォーター）を間接的に輸入することになる

第2問 (20点)

設問A

(1) 2点 (完答)

ア-Q    イ-R    ウ-P

(2) 3点

i国では貿易風による高温多雨の気候の下で、東南アジアから渡来したマレー系民族によってもたらされた稲作農業が盛んである。(2行)

【加点ポイント】

①<1点> 【i国の穀物供給熱量の特徴】

○稲作農業が盛ん／米の熱量が高い／米食文化である

(※「米」または「稲」を指摘していれば可)

②<1点> 【①の気候面での理由】

○高温多雨

→ ※記述不要だが間違った場所であれば加点しない

○熱帯雨林気候 (Af) が分布する (島の東側)

③<1点> 【①の文化面での理由】

○マレー系民族である

○ (1世紀前後に) 東南アジアから渡来した民族である

(3) 2点

国民の多くが紅茶を嗜む習慣を持つイギリスの植民地であった。(1行)

【加点ポイント】

①<2点> 【歴史的背景】

○イギリスの植民地であった／旧宗主国がイギリスである

(4) 4点    ※ [指定語句] 火入れ 人手不足    2つ全て 下線付きで使用

指定語句については ☆☆ 参照

農園開発に伴う熱帯林破壊や火入れによる煙害などの環境問題や、労働者の製造業部門への流出などによる人手不足が深刻である。(2行)

【加点ポイント】

①<1点> 【環境面の課題1】

・熱帯林の破壊／森林減少／生態系の破壊

・(その理由として) 農園開発／大規模な開墾 } ○両方の要素で1点

②<1点> 【環境面の課題2】

・煙害／森林火災 (山火事)

・(その理由として) 火入れ } ○両方の要素で1点

(次ページに続く)

②<1点>【労働面の課題】

- 人手不足
- 児童労働
- 移民による低賃金労働

③<1点>【②の背景】

- 劣悪な労働条件
- 製造業部門への労働力流出／工業化の進行

設問B

(1) 2点 (完答)

輸出品目－A 輸出相手国－Y

(2) 3点

オーストラリアの主要輸出品のうち、鉄鉱石・石炭などの資源はインドも生産が多く、牛肉などの肉類はインドでの需要が小さい。(2行)

【加点ポイント】

①<1点>【オーストラリアの主要輸出品目について】

- 資源／鉱産資源／鉄鉱石／石炭
- ×「石油／原油」のみ

②<1点>【①について】

- (資源は)インドでも生産が多い／インドでも多く産出する／インドの輸出品目でもある

③<1点>【オーストラリアの①以外の輸出品目について】

- 牛肉(肉類)はインドでの需要が少ない
- ヒンドゥー教徒の多いインドではあまり牛肉を食べない

(3) 4点

ICT分野の技術者が、同じ英語圏で多文化主義のオーストラリアを移住先に選んでいる。労働力の提供で相手国経済に貢献するが、本国では頭脳流出の懸念もある。また、文化摩擦も生じている。(3行)

【加点ポイント】

①<1点>【移民の多い産業分野】

- ICT／情報通信／コンピュータ関連／ソフトウェア開発

②<1点>【移民増加の背景】

- 同じ英語圏／英語が公用語である
- 多文化主義／移民受け入れに寛容
- ×「同じ旧イギリス植民地」のみ

(次ページに続く)

③<1点×2>【移民増加の影響】

- オーストラリアに労働力を提供／オーストラリアに技術を提供  
／オーストラリア経済へ貢献
  - インドの頭脳流出の懸念／インドの技術者流出
  - 文化摩擦／オーストラリアでのインド人排斥運動
- } ○1つ1点  
2点まで

第3問 (20点)

設問A

(1) 2点 (完答)

X－タイ    Y－韓国    Z－中国

(2) 3点

雪景色や寒海の魚介類など、年中高温なタイでは楽しめない冷涼地域ならではの観光資源を多く持つ、北海道に宿泊する人が多い。(2行)

【加点ポイント】

★(1)で「X－タイ」を正解していることが加点の前提

①<1点>【判定理由】

- 北海道に宿泊する人が多い／北海道の割合が高い

②<1点>【①の背景1】

- タイは年中高温である／タイは熱帯に位置する／タイでは雪が降らない
- ※「タイは暑い」ことが読取れば可

③<1点>【①の背景2】

- 北海道は冷涼である／北海道は雪（景色／スポーツ）が楽しめる
- 北海道は寒海の魚介類などが楽しめる／寒い地域の食事ができる
- ※「北海道は寒い／雪が降る」ことのメリットが読取れば可

(3) 3点

韓国から近距離にあり、航空機の直行便や高速船を利用する低費用かつ短時間で往来が可能な、九州・沖縄に宿泊する人が多い。(2行)

【加点ポイント】

★(1)で「Y－韓国」を正解していることが加点の前提

①<1点>【判定理由】

- 九州・沖縄に宿泊する人が多い／九州・沖縄の割合が高い

②<1点>【①の背景1】

- 近距離である／低費用で来られる／短時間で来られる
- ※「安い」「近い」「短時間」のいずれかで可

(次ページに続く)

③<1点> 【①の背景 2】

○航空機の直行便がある／高速船で往来できる（定期便がある）

※「交通の便が良い」ことが読取れば可

(4) 2点

京都の、東洋らしい寺社や史跡を訪れるよりも、大阪で買い物や食事を楽しみ、テーマパークなど現代的な施設を訪れる人が多い。(2行)

【加点ポイント】

①<1点> 【京都の特徴 または アメリカ合衆国やイギリスからの旅行者の目的】

○寺社や史跡／東洋（日本）の文化（歴史）に触れる／老舗の食事

②<1点> 【大阪の特徴 または アジア諸国からの旅行者の目的】

○買い物／繁華街／大衆的な食事

○テーマパーク（USJなど）／現代的文化／娯楽施設

設問B

(1) 2点（完答）

アー韓国・朝鮮 イー中国 ウーベトナム

(※「アー韓国」「朝鮮」抜け)で、イ、ウが正解の場合→△1点)

(2) 4点 ※ [指定語句] リーマンショック 日系ブラジル人 景気回復 労働力需要

4つ全て 下線付きで使用

指定語句については ☆☆ 参照

リーマンショック後の不況で、自動車関連工場等で働く日系ブラジル人が多数失職し、帰国した。その後、景気回復が進むと再び労働力需要が発生し、フィリピンからの就労目的の移住が増加した。(3行)

【加点ポイント】

①<1点> 【東海4県で在留外国人が多い理由】

○自動車関連工場が多い／自動車産業で働く外国人が多い

※「自動車」関連産業で外国人が（ブラジル人でもフィリピン人でも）働くことを文中で指摘していれば可

②<1点> 【2008年以前に割合が多かった在留外国人について】

○日系ブラジル人

③<1点> 【②について】

○リーマンショック後に帰国した／リーマンショックによる不況で失職した

④<1点> 【フィリピン人の割合が増加した理由】

○景気回復が進んで再び労働力需要が発生した／景気回復により労働力需要も回復した

(3) 4点 ※ [指定語句] 賃金水準 リスク 隣接 3つ全て 下線付きで使用

指定語句については ☆☆ 参照

中国は経済発展で賃金水準が上昇し、日系企業への抗議行動等の問題が生じるリスクも高い。そのため、中国に隣接し、中国より賃金水準の低いベトナムに生産拠点の一部を移す日系企業が増えた。(3行)

【加点ポイント】

★(1)で「イー中国」、「ウーベトナム」を正解していることが加点の前提

①<1点> 【在留邦人の増減の理由】

○中国からベトナムへ生産拠点を移す日系企業が増えた

※企業が中国からベトナムへ移転したことがわかれば可

②<1点> 【①の背景 1】

○中国よりベトナムの方が賃金水準が低い

○中国は賃金水準が上昇した

③<1点> 【①の背景 2】

○ベトナムは中国に隣接している

○ベトナムは中国に近く移転しやすい

④<1点> 【①の背景 3】

○中国では反日感情などから問題（抗議行動など）が生じるリスクが高い

○中国では労働争議（ストライキなど）のリスクが高い

○中国以外の生産拠点を持つことでリスク分散を図った